

理事長所信

一般社団法人陸前高田青年会議所
第49代理事長 加藤 隆史

2021年度スローガン

We Can

～明るい未来を想像し、確かな明日を創造する～

【はじめに】

陸前高田青年会議所第49代理事長として所信を述べるに当たり、約半世紀に渡る長い年月、幾度となく未曾有の危機に直面しようとも、燃え滾る情熱と確固たる信念を持ち当地域の明るい未来のために力強く運動を展開されてきた先輩諸兄に対し、心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

私たちが住み暮らすまちに甚大な被害をもたらした東日本大震災から10年が経過しようとしています。この10年間は「感謝」の一言では言い尽くせないほど、日本中、世界中の皆さん、そして同じ志を持った全国のLOMの仲間や友好JCに幾度となく支えられ、励まされ、未来に向けて背中を押していただきました。皆さんからいただいたエネルギーを活力に“私たちが地域の明るい未来の命運を握っている！”その使命感と自負を持ち、いついかなる時も己を強く信じ、仲間を固く信じ、逆境に屈することなく運動を展開し、脈々と受け繋がれてきたその熱きJAYCEEの意志を次代に継承していきましょう。

【変革の渦であれ】

一人の強く揺るがない意志は、言葉や行動に表れ、周囲の意識を変容させて大きな変革の渦に成長します。この変革の渦を一つでも多く生み、その渦巻き波紋を地域全体へ伝播させる事により人々は明るい未来を描くことができ、地域に笑顔が溢れるものと確信します。私たちが地域を愛し家族や仲間と共に笑顔でいられる当たり前の日常を送ることが出来ているのは、明るい豊かな社会を実現するため、地域の課題解決に真摯に取り組まれた志高き先輩諸兄のご尽力の賜物に他なりません。その意志を継ぎ、今度は私たちが渦の中心となる番です。

そのためにも、私たちは青年会議所の本質や存在意義を改めて認識すると共にJAYCEEとして能動的に考え行動出来る力を養い、組織の力の根源となる個の力を高めていく必要があります。個人の魅力の高まりは組織の魅力を高め、会員拡大にも寄与するものと信じています。同じ志を持った仲間の英知を結集し、失敗を恐れず未来への一步を踏み出す勇気を携え、揺らぐことのない情熱を武器に困難を打破し、地域により良い変革をもたらせるリーダーへと成長していきましょう。私たちにはそれが出来ます。

【大きな変化を大きな機会に転換する】

私たちは先人たちが継承してきた伝統的な文化や芸能、技能にごく当たり前のように触れ、守られてきた豊かで風光明媚な自然に囲まれて暮らし、地域の人が丹精込めて作った幸を食べて育ち、地域への愛情を育んできました。しかしながら、人口減少や超高齢化時代の到来により、私たちが今行動をしなければ地域の個性や宝は失われていきます。この誇れる地域の宝を次代に継承していくために、地域の数ある魅力を再発見し地域内外に訴求する取り組みを行うことで担い手候補者を育成すると共に、地域の転出超過の問題、移住定住促進や交流人口拡大の課題にも確固たる当事者意識を持って向き合っていきましょう。

また、生産年齢人口の減少や復興工事の終了は今後地域経済の縮小に圧力をかけ、私たちが未来永劫この地で安心して暮らしていくためには、大きな変化を大きな機会に転換しながら地域経済の持続可能性を高めていかなければなりません。眩いほどの地域の未来を大きく描き、その未来創造のカギを担っている私たちが気概と行動力を持って、一步ずつ着実に明るい未来への歩みを進めていしましょう。私たちにはそれが出来ます。

【強い志が大きな夢を魅させる】

子どもの未来の可能性は無限大です。しかし、近年は日本全国で自然災害による甚大な被害が相次ぎ、加えて新型コロナウイルスの感染拡大等により不安感や閉塞感が蔓延し、子どもたちが輝かしい未来を夢描くことが妨げられています。時代が変わろうとも子どもたちの未来は明るく輝かしいものでなければいけません。子どもたちにワクワクする体験の機会やドキドキする挑戦の舞台を与えることは子どもたちの好奇心をくすぐり、興味関心の幅を広げ、探求心を育て考える力を養います。そのようにして子どもが真っすぐ健やかに育ち、無限の可能性を秘めた未来へ進み、この地域を明るいものにしていくのです。また、今後一層国際交流は活発になるものと想像されますが、国際交流は子どもたちの視野を広げ視座を高め、多様性の受容を助け、成熟した大人への成長に寄与するため、そうした機会を積極的に提供していきたいと考えます。

夢の実現に向けたとえ何度大きな障壁に直面しようとも、その逆境に目を背けず歯を食いしばり懸命に立ち向かい、壁を乗り越え大きく飛翔する。皆で力を合わせれば何事も乗り越えられる、そんな諦めない心を持った強い子どもたちに育ててほしい。そのために私たち大人が信念を貫く強い志を持ち、逆境に打ち勝ってみせる背中を見せることで、子どもたちは勇気を与えられ夢に向かい邁進出来るのではないのでしょうか。私たちの強い志で子どもたちに大きな夢を描かせてあげましょう。私たちにはそれが出来ます。

【仲間と共に事を成す】

2020 年度に開催を予定していた当青年会議所を主管とする第 50 回岩手ブロック大会は

新型コロナウイルスの感染拡大によって敢え無く中止となりましたが、2021 年度、再び開催をさせて頂く機会をいただきました。東日本大震災の発災から 10 年が経過しようとしています。その節目の年に 13 年に一度主管させていただく岩手ブロック大会を開催出来る事になったのは、偶然ではなく意味があり、これまで支えていただいた皆さんに沢山の笑顔を取り戻したまちや人が持つ活力をお見せ出来る大変貴重な機会であると捉える事が出来ます。震災に負けずに昔から親しみ愛される数多くの地域の味や、山・川・海が循環して育んできた大いなる自然の恵み、そしてそれらを絶やすことなく次代に繋ごうとする地域の人たちの強い意志。これら地域の魅力や人を総動員し一丸となるためにも、まずは私たちが組織の結束力を強固にして一体感を強め、地域を巻き込んでいく事が重要です。強く揺るがない意志で地域の共感者を増やし、震災後に生まれた様々なネットワークも最大限駆使して仲間を広げ、陸前高田市・住田町で大きな一団を結成しましょう。また、開催準備の過程においては地域の事業者や関係団体と共通の目標をシェアしてベクトルを合わせ、共に士気を高める機会を作る事も必要です。

私は震災を契機に潜在的に人が持っている支え合いの心を感じざるを得ませんでした。困っている人には手を差し伸べ力になり、悲しんでいる人には寄り添い支え、頑張っている人には鼓舞して共に汗を流す。人は支え合いながら生きており、仲間を信じて支え合うからこそ個人では到底届かぬような事を成すことが出来るのです。仲間と共に周到な準備と綿密な連携を積み重ね、地域をより明るい未来へ導いていけるような発展性ある大会に創り上げていきましょう。私たちだからこそそれが出来ます。

【結びに】

来年、陸前高田青年会議所は創立 50 周年を迎えます。先輩諸兄が紡いできた 50 年間という長き歴史の重みを噛みしめ、その軌跡を振り返るとともに、大勢の方にお披露目が出来るよう

本年より準備も進めてまいります。また、震災をきっかけに締結させていただいた友好 JC である浦添 JC との関係は、震災から 10 年という節目の年で終えるものではありません。互いに刺激し成長し合えるよう、これまで以上にも増して継続して交流し、今後 20 年 30 年と関係をより強固なものにしていきましょう。

青年会議所には様々な自己成長の機会があり、それをやるかやらないかは己が決めるのです。私たちの挑戦は自己の成長を促し所属する企業の成長や地域の発展、延いては混沌とした世の中であっても次代を担う子どもたちの明るい未来を力強く切り拓くものと確信しています。誰かがやるのではなく、今まさに私たちが強い当事者意識を持って地域の課題と対峙し挑戦しなければいけないのです。明るい未来を想像して仲間と共に挑戦し、漫然と日々を過ごすのではなく確かな明日を一步一步着実に創造していきましょう。

基本計画

スローガン

We Can

～明るい未来を想像し、確かな明日を創造する～

基本理念

未来をつくる着実な一步の創造

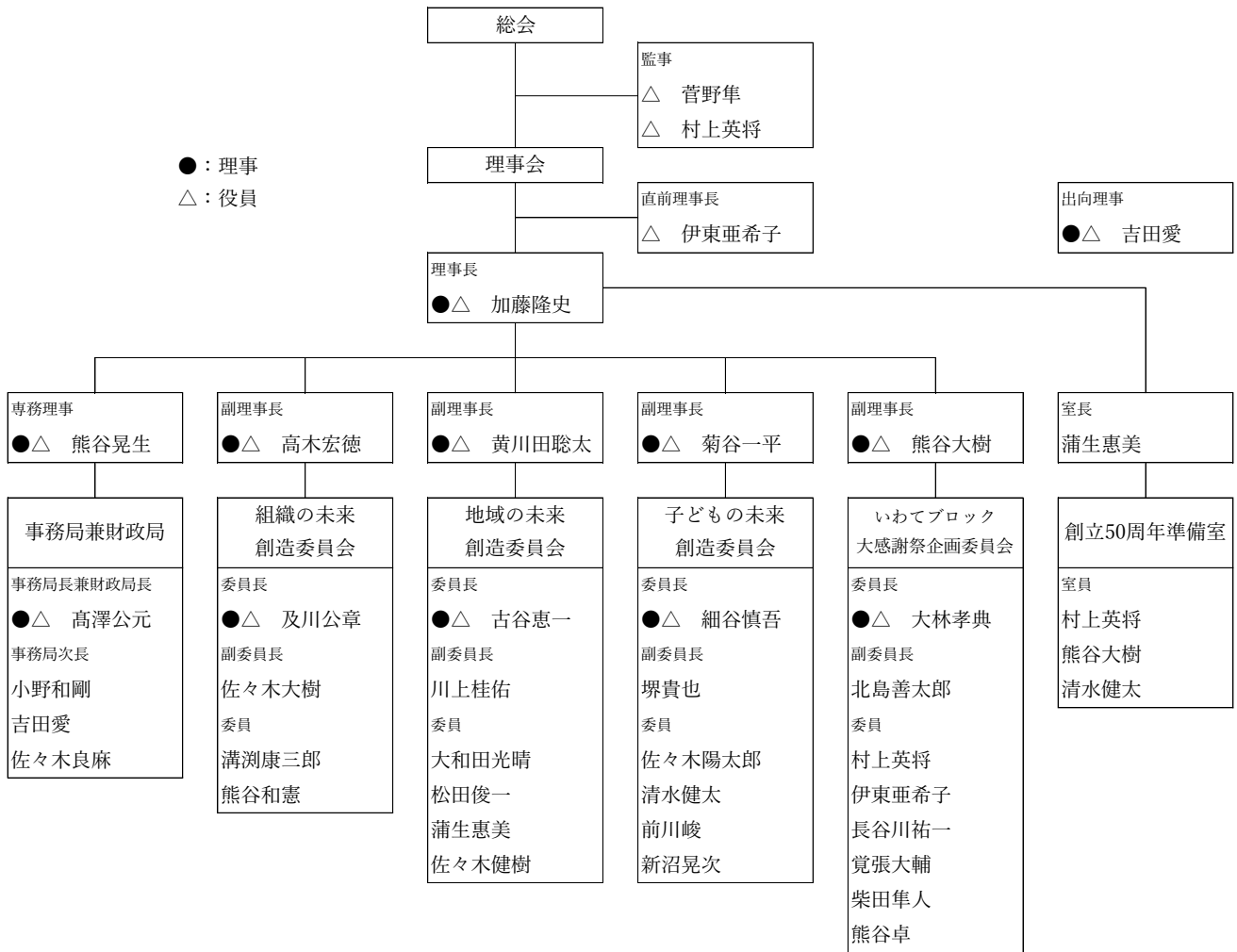
基本方針

- 1, J C運動の本質理解と能動的挑戦で自己成長する事による組織力の向上
- 2, 地域の課題と真摯に向き合い、地域の明るい未来を創造する事業の展開
- 3, 子ども達が未来にワクワクし大きな夢を描くことが出来る事業の展開
- 4, J C運動への理解と共感を広げ、市民一体となったブロック大会の構築
- 5, 創立50周年を迎えるための助走期間としての活動
- 6, 会員一丸での積極的な会員拡大活動の展開
- 7, 一人ひとりが役割を理解したメリハリのある組織運営
- 8, L OM内外の事業への積極的な参加
- 9, 行政、他団体及び他 L OM、友好JC等との連携

基本計画

- 1, 会員の当事者意識を高めて行動力を磨き、JAYCEEとして成長するための活動の実施
- 2, 地域の魅力を再発見し地域内外に広め、地域課題の解決に繋がる事業の実施
- 3, 子ども達に多様な機会を提供し、健全な成長と未来の可能性を広げる事業の実施
- 4, 各関係団体と連携した第50回岩手ブロック大会の実施
- 5, 50年間の運動、活動の歴史に関する情報収集・整理等の実施
- 6, 目標に向かい計画的かつ組織的な会員拡大活動の実施
- 7, 綿密な情報共有と円滑な連携による組織運営の実施
- 8, L OM、岩手ブロック、東北地区及び日本事業への積極的な参加
- 9, 行政、他団体及び他 L OM、友好JCとの活発な交流及び積極的な事業連携の実施

組織図



出向者名簿

公益社団法人日本青年会議所		
出向先	氏名	
質的価値創造会議 運営幹事	蒲生 恵美	
質的価値創造会議 運営幹事補佐	長谷川 祐一	

公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会		
出向先	氏名	
副会長	菅野 隼	
監査担当役員	伊東 亜希子	
いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾長	菊谷 一平	
ブロック大会運営委員会 副委員長	吉田 愛	
いわてJAYCEEアカデミー委員会 総括幹事	堺 貴也	
いわてJAYCEEアカデミー委員会 運営幹事	熊谷 大樹	
いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾幹事	小野 和剛	
岩手の未来創造委員会 委員	黄川田 聡太	
ブロック大会運営委員会 委員	川上 桂佑	
連携推進委員会 委員	前川 峻	
LOM支援委員会 委員	熊谷 晃生	
総務広報委員会 委員	新沼 晃次	
いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生	川上 桂佑	

2021年度 一般社団法人陸前高田青年会議所 収支予算書

2021年1月1日から2021年12月31日まで

科目	本年度予算額	前年度決算額	前年度予算額	増減	摘要
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①入会金収入	120,000	0	72,000	48,000	
入会金収入	120,000	0	72,000	48,000	12,000円×会員拡大10名
②会費収入	3,520,000	3,400,000	4,040,000	-520,000	
正会員会費収入	2,720,000	3,400,000	3,480,000	-760,000	80,000円×現会員34名
新入会員会費収入	800,000	0	480,000	320,000	80,000円×+会員拡大10名
特別会員会費収入	0	0	80,000	-80,000	20,000円×0名
その他会費収入	0	0	0	0	
③事業収入	1,000,000	2,000	1,000,000	0	
登録料収入	1,000,000	0	1,000,000	0	
広告料収入	0	0	0	0	
販売収入	0	0	0	0	
雑収入	0	2,000	0	0	
④補助金等収入	0	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	0	
補助金等交付業務受託収入	0	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	0	
⑤負担金収入	0	0	0	0	
受取負担金収入	0	0	0	0	
⑥寄付金収入	0	25,762	0	0	
受取寄付金収入	0	25,762	0	0	
受取募金収入	0	0	0	0	
⑦雑収入	176,100	172,040	200,100	-24,000	
受取利息収入	100	40	100	0	
その他雑収入	176,000	172,000	200,000	-24,000	手帳・名刺代4,000円×44名
⑧他会計からの繰入金収入	0	0	0	0	
特別会計からの繰入金収入	0	0	0	0	
事業活動収入計	4,816,100	3,599,802	5,312,100	-496,000	
2. 事業活動支出					
①事業費支出	1,940,000	591,927	2,090,000	-150,000	
親子の絆育成委員会		186,165	200,000		
組織の未来創造委員会	200,000	1,485	200,000	0	
地域の未来創造委員会	200,000	187,514	200,000	0	
子どもの未来創造委員会	200,000	73,609	200,000	0	
「いわてブロック大感謝祭」企画委員会	1,050,000	0	1,050,000	0	
事務局	250,000	143,154	200,000	50,000	
事業雑費	40,000	0	40,000	0	
②管理費支出	1,994,964	847,586	2,163,042	-168,078	
通信運搬費支出	127,500	81,539	127,500	0	切手
消耗品費支出	335,000	208,474	325,000	10,000	封筒代[長3]10,900円[角2]12,200円(税別)・事務用品代・新型コロナウイルス感染対策関連10,000円
印刷製本費支出	280,000	371,227	500,000	-240,000	(手帳1,000円+名刺3,000円)×44名、手帳08・予備分1,000円×56、コピー使用料28,000円
水道光熱費支出	112,000	98,176	112,000	0	灯油代、JCLーム共益分
消耗什器備品費	0	0	0	0	
賃借料支出	34,000	3,060	34,414	-414	JCLーム土地負担金、浄化槽点検代
保険料支出	0	0	0	0	
渉外費					
JC間渉外費	30,000	28,220	30,000	0	
請渉外費	38,000	11,000	38,000	0	観光物産協会、国際交流協会、気仙川清流協議会、木更フェスティバル実行委員会
大会諸費	35,000	14,000	35,000	0	京都会議、野球大会、ブロック大会
慶弔費	15,000	0	15,000	0	
支払手数料支出	12,000	8,690	12,000	0	銀行振込み手数料
租税公課	92,600	23,200	92,600	0	県・市民税、登録免許税、収入印紙
雑支出	33,864	0	21,528	12,336	バッジ1,600円、ネームプレート1,700円×10名、送料864円
管理・運営予備費支出	870,000	0	820,000	50,000	
③負担金支出	746,018	984,228	1,004,944	-258,926	
日本JC会費支出	308,018	401,228	402,944	-94,926	=基本金(30000円)+付加金(5000円×会員数)+JCI会費(13ドル×会員数)+国際協力費(1825円×会員数)
出向者負担金支出	20,000	70,000	50,000	-30,000	日本JC出向2名
We BELIEVE購読料支出	102,000	132,000	132,000	-30,000	3,000円×会員数
地区負担金支出	56,000	71,000	80,000	-24,000	=基本金(5000円)+付加金(1500円×会員数)
ブロック負担金支出	280,000	310,000	340,000	-60,000	=基本金(90000円)+付加金(5000円×会員数)
④他会計への繰出金支出	0	0	0	0	
特別会計への繰出金支出	0	0	0	0	
事業活動支出計	4,680,982	2,423,741	5,257,986	-577,004	
事業活動収支差額	135,118	1,176,061	54,114	81,004	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
投資活動収入計	0	0	0	0	
2. 投資活動支出					
①固定資産取得支出	0	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
①借入金収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	
2. 財務活動支出					
①借入金返済支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	135,118	1,176,061	54,114	81,004	
前期繰越収支差額	8,049,211	6,873,150	6,873,150	1,176,061	
次期繰越収支差額	8,184,329	8,049,211	6,927,264	1,257,065	